

バイオネストの庭

造園緑化コース

1. はじめに

私は公園でインターンシップを経験し、バイオネストについて学んだ。卒業制作ではその経験を活かし、バイオネストを制作したいと思った。

バイオネストは、剪定枝といった植物発生材処理の経費を抑えることと、植物発生材を資源として活用することを目的とした堆肥づくりである。管理で発生した剪定枝や、腕の太さ程度の樹木の幹などの植物発生材を組み合わせ、鳥の巣のような形状にすることから「バイオ=生命」、「ネスト=巣」と呼ばれている。バイオネストを設置することで、植物発生材の運搬・処理する手間を省くことができるので、生態系や環境に優しい。

制作方法はバイオネストを制作する場所に剪定枝を運搬し材料の長さを調整する。コンベックスを使用して、中心となる杭を打つ。土台となる枝（直径 30 cm 程度）を置いて、2 段目からは、腕くらいの枝（10~15 cm 程度）を組んでいく。制作途中に離れたところから見て、枝と枝の隙間がないか確認する。必要であれば、細い枝で隙間を埋める。バイオネストの高さがひざ（約 60 cm）程度になったら完成である。

2. 1 作目「初号木」

初めてバイオネストを制作するため小規模で、基本的な形状である円形（直径 2m）とした。「初号木」は剪定枝が入手し易く、落ち葉などが捨て易い、第 2 駐車場に設置した。タイトルは初めての制作という「初号機」から取り、枝で作っているので「初号木」とした（写真-1）。

3. 2 作目「CUTIE NEST」

1 作目よりひと回り大きい直径 3m のバイオネストを 1 作目の右後ろに制作した。タイトルにある「CUTIE」=可愛らしい作品にしたい思い、枯れた葉ではなく、剪定したばかりの生き生きとした葉を入れた。細い枝を多く使用したため、崩れ易く、多量の材料が必要だった 1 作目の反省点を活かし、太い枝を利用した。また、周囲の樹木を剪定し「バイオネストの庭」とした（写真-2）。

4. 3 作目「OVALE NEST」

1 作目と 2 作目は円形だったので、四角や三角といった形も検討したが、制作、利用のし易さを考え、第 2 駐車場に楕円形（短軸 3m、長軸 4m）のバイオネストを設置した。これまでより大きい作品なので、崩れ易い。そこで、試行錯誤した結果、土台に太い剪定枝を使用した（写真-3）。

5. 4 作目「サルスベリのバイオネスト」

幹肌がつつるつつして美しいサルスベリの枝を活かしたバイオネストなので「サルスベリのバイオネスト」とした。サルスベリの枝は、硬くて切るのに時間がかかった。枝も曲が

っており、組むのが難しい。直径 4m、設置場所は実習棟裏（写真-4）。

6. 5 作目「ワークショップのバイオネスト」

5 作目はワークショップで制作したため「ワークショップのバイオネスト」というタイトルにした。ワークショップは憩いの丘公園（岐阜県可児市）で桂ヶ丘自治会まちづくりプロジェクトのメンバー5名と相田先生、私の合計7名で2024年12月22日（日）9時30分に開始した。説明の後、公園内の剪定枝置き場から設置場所に剪定枝を運搬した。枝を約60cmに切った後、アドバイスをしながら、組み立てた。今回の作品は直径3mである。当初、午後までかかると予想していたが、2時間半ほどで完成した。「材料を調達して、自分たちでだけで作ってみたい」といった参加者からの感想があった（写真-5）。

7. まとめ

バイオネストは昆虫の生息環境を提供するといった生態系や環境に貢献する。また、資源の再利用にもつながり、自然環境に還元される。そして、バイオネストという芸術的なオブジェを設置することで、その空間が「バイオネストの庭」となる。

ワークショップを取り入れることで、地域の人々や子供たちに環境教育を学ぶ機会を提供することができる。地域の人々と協働することでコミュニケーションを取り、新たな発見や親睦を深めることができると考える。

なお、本作品を第51回全国造園デザインコンクールに応募した。



写真-1 1作目「初号木」



写真-2 2作目「CUTIE NEST」



写真-3 3作目「OVALE NEST」



写真-4 4作目「サルスベリのバイオネスト」



写真-5 5作目「ワークショップのバイオネスト」